

臨床医学総論

単位数：2単位(45時間)

責任者：安原 努
学年・学期：第1学年・前期／後期

◆一般目標(GIO)

毎回数種類の疾患を取り上げ、症状、検査所見、治療法、予後について概観する。本講義では疾病の臨床像がイメージできるよう各臓器の基本的な知識や病院で実際に起こっているエピソードを中心に、具体的で実用性の高い知識習得を目標とする。また、検査データが臨床現場でどのように使われるのか知り、疾患ごとの患者さん接遇のポイントを理解することを目標とする。

◆到達目標(SBOs)

1. 各臓器の解剖、生理に基づき疾患の病態が検査にどう反映されるか説明できる。
2. 病名を聞いた時、その疾患に特徴的な患者さんの顔つき、体つき、動作、重症度などを具体的にイメージできる。
3. 緊急検査が必要な項目にあっては、なぜそれが緊急でなければならないのか、遅れると患者さんがどうなるのかを具体的にイメージできる。
4. 検体を介した感染症から自らを守り、院内感染予防に臨床検査技師がどんな貢献ができるか考えることができる。
5. 病名、検査に関する略号や専門用語に精通し、その意味を答えることができる。
6. 心疾患の症状、検査所見を述べることができる。
7. 呼吸器疾患の症状、検査所見を述べることができる。
8. 臨床現場で問題となる耐性菌、感染症を挙げ、その臨床像をイメージできる。
9. 消化管の炎症や悪性腫瘍の症状、検査所見を述べることができる。
10. 肝、胆、膵疾患の症状、検査所見を述べることができる。
11. 主な輸入感染症、STDの臨床像と予防法を解説できる。
12. 尿検査の異常所見がどのような臨床像(症状など)と関連しているかを病名、病態を挙げて解説できる。
13. 主な悪性腫瘍の臨床像を説明できる。
14. 糖尿病、痛風、脂質異常症、ビタミン欠乏症の診断・経過観察に用いられる検査を解説できる。
15. 赤血球、白血球、血小板の異常検査値がどのような臨床症状に結びついているかを具体的に説明できる。
16. 主な内分泌疾患について特徴的な病像を想起し説明できる。
17. 主な内分泌疾患について診断の決め手となる検査名を挙げるができる。
18. アレルギー・膠原病について診断の決め手となる検査名を挙げるができる。
19. 主な神経、筋疾患について特徴的病像と検査の役割を想起できる。

◆学習方法

授業は基本的にプリントを使用する。また、必要に応じてスライドを使う。

◆評価方法

出席を考慮し、レポートの提出などを求めることもあるが、基本的には学期末のテストで評価を行う。

◆教科書

臨床検査学講座 『臨床医学総論/臨床検査医学総論』
奈良 信雄、高木 康、和田 隆志 編著 医歯薬出版(株)

◆参考書

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1	序論、循環器疾患①	解剖、検査、不整脈の種類、高血圧症	安原
2	循環器疾患②	先天性疾患、虚血性心疾患	〃
3	呼吸器疾患①	解剖、感染症、結核	〃
4	〃 ②	呼吸不全、慢性閉塞性肺疾患	〃
5	消化器疾患①	解剖、検査、消化管疾患	〃
6	〃 ②	食道、胃、十二指腸疾患、大腸疾患	〃
7	肝、胆、膵疾患①	解剖、検査、肝疾患	〃
8	〃 ②	胆のう疾患、膵疾患	〃
9	感染症①	細菌感染症、ウイルス感染	〃
10	〃 ②	リケッチア、原虫感染症、STD	〃
11	腎泌尿器疾患①	解剖、検査、腎疾患	〃
12	〃 ②	糸球体腎炎、ネフローゼ、尿路結石	〃
13	代謝栄養疾患①	代謝、栄養、栄養障害	〃
14	〃 ②	糖尿病、高脂血症、痛風、ビタミン欠乏症	〃
15	血液疾患①	解剖、検査、赤血球疾患、白血球疾患	〃
16	〃 ②	血小板疾患、凝固系の異常	〃
17	内分泌疾患①	解剖、検査、間脳、下垂体・甲状腺疾患	〃
18	〃 ②	副甲状腺・副腎疾患	〃
19	アレルギー、膠原病①	免疫機構、気管支喘息	〃
20	〃 ②	膠原病 (RA・SLE・PSS・SjS)	〃
21	神経、筋疾患①	解剖、検査、脳血管障害	〃
22	〃 ②	脳腫瘍、神経筋変性疾患	〃
23	まとめ①	要点の整理と将来展望	〃
24	まとめ②		